

2018年度事業報告書

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)

特定非営利活動法人西中国山地自然史研究会

1 事業の成果

西中国山地自然史研究会は、環境保全・里山文化の継承・生物の多様性などの観点から西中国山地の豊かな自然環境を保全し、地域社会に貢献することを目的に活動をしている。

教育事業では、長年続けている自然観察会に加え、里山をフィールドにした小学生向けのせどやま教室、サイエンスカフェ形式のハカセ喫茶やエコカフェなど、多様なスタイルで、自然に親しみを持ってもらう機会を増やした。2回目となる薪フェスティバルでは、地域や行政、企業と連携することで様々なプログラムの提供が実現し、来場者の増加につながった。**調査・研究事業**では、霧ヶ谷湿原において両生類の産卵調査を継続して実施、外部の研究者による鳥類やチョウの調査も実施し、データに蓄積を継続している。**保全活動**では、千町原の草原保全活動において、地域資源となるススキの利活用に向けて新たに中学校PTAとの連携を図ることができた。また、里山保全のための芸北せどやま再生事業は、7月より運営から実施まで当会が担うこととなり、関係者との話し合いの機会を増やし、方向性や情報の共有を重要視した。**高原の自然館運営事業**では、生きものの展示などをアピールし、特に親子連れへの接客を積極的に行った。**運営面**では、月ごとに運営面のニュースレターを発行し、寄付額や会員数がわかるような工夫をした。

これらの事業を通じて、西中国山地の自然の重要性について、広く啓発をはかるとともに、科学的な見地からの情報を収集し、地域にとって有用な環境保全策を立案し、実行することができた。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

| 事業名 | 事業内容 | 実施日時 | 実施場所 | 従事者の人数 | 受益対象者の範囲及び人数 | 支出額(円) |
|------------------------|--|-------------|-------|------------|---------------------|-----------|
| 教育事業 | 自然史科学の普及に寄与するため、観察会・講習会・サイエンスカフェなど必要な活動を行なった。 | 年45回 | 広島県内 | 100人 | 学校・一般市民等 980人 | 1,924,958 |
| 自然保護のための調査・研究および活動事業 | 自然史科学の普及に寄与するため、研究・調査を企画し、必要な事業を行なった。 | 通年 | 北広島町内 | 20人 | 不特定多数 | 103,429 |
| 自然保護・活用のための保全活動 | 地域住民・ボランティアと協働で里山や草原などの生態系、および野鳥、魚類などの希少種保全活動を行った。また、森林整備、里山保全を目的としたせどやま事業の運営協力を行った。 | 年13回／ 通年 | 北広島町内 | 20人／3 人 | 一般市民等 200人／不特定多数 | 3,367,609 |
| 自然保護のための情報発信事業 | 西中国山地の自然や活動の情報をインターネットや研修会などで発信した。 | 通年 | 広島県内 | 5人 | 不特定多数 | 201,788 |
| 高原の自然館が開催する事業への参加・協力事業 | 高原の自然館の諸活動を支援するために、展示や学習資料の開発、教育普及プログラムの開発など、教育普及活動および必要な研究活動を支援した。 | 通年 | 事務所 | 5人 | 高原の自然館利用者 6,512人 | 2,406,977 |
| 環境保全に関する物品の製作・販売 | 自然史科学の普及のために必要な物品を作成した。また、物品や書籍等を販売した。 | 通年 | 事務所 | 2人 | 不特定多数 | 450 |
| 環境保全に関する出版 | 自然史科学の普及のために必要な物品の出版を行った。 | 通年 | 事務所 | 1人 | 不特定多数 | 25,880 |
| 西中国山地自然史研究会の運営事業 | 西中国山地自然史研究会の運営を行った。 | 通年 | 事務所 | 2人 | 不特定多数 | 4,679,400 |